
天窓

灰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天窓

【著者名】

灰

【Zコード】

Z9965Z

【あらすじ】

「外に行つてみたいなあ」

どうして私だけ、外に出られないんだろう。

気づいたらこんな狭い部屋に入れられていて、5回目の春が来た。

「外に行つてみたいなあ」

どうして私だけ、外に出られないんだろう。

気づいたらこんな狭い部屋に入れられていて、5回目の春が来た。

いつも汚い顔をした男の人に体中を触られて、変な事ばかりされる。

昨日はあまりに気持ち悪くなつて、男の人の顔に吐いてしまつた。

男の人は怒つて何回も私の顔を殴りつけたけど、全然痛くなかった。

あんなの日常茶飯事だから。

痛みなんて忘れてしまつた。

前は毎晩逃げようとしたけれど、その度見つかつて殴られた。

今は逃げられないように体中に鎖を巻きつけられて、手も足も動かせない。

部屋の時計がもうすぐ正午を指す。

そろそろ汚い連中が私を犯しにくることだ。

なんだかもう、どうでもいい。

でも、この日私のところに来たのは、いつものような汚い連中じゃなくて、優しそうな一人の少年だった。

「君を助けにきたんだよ

そういって彼は私の体の鎖をほどいてくれた。

生まれてはじめて触れる温もりに、私は戸惑いしか感じれなかつた。

天窓　？（後書き）

はじめまして。
下手くそですが、もしよければ感想・コメントなど宜しくお願ひします。

天窓　？

「触らないで」

差し伸べられた手を、私は払いのけてしまった。

もう人なんて信じられない。

この人も、きっとあの汚い連中と一緒に。

優しさの裏に潜む醜さは、もう充分すぎるほど知っているから。

「君は未熟だね」

彼は私の体をじろじろ見ながらそういった。

身体が未熟、そう言いたいんだろうか。

「違うよ。そんなんじゃない」

頭の中が見透かされたかのような口調に、私は驚いた。

「人の心が……見えるの？」

私が小さく問いかけると、彼は大きく口を開いて笑った。

「君にはユーモアのセンスがあるね。」

「そんなんじゃない。ただ君の目が疑いの意でいっぱいの目をして

いたから、そう思つただけだよ。」

私はそんな田をしていただろうか。

田つきだけで、疑つてゐることが分かるほどの田を。

「可哀想だ。本当に」

彼は突然そんな事をいいだしたので、私は笑つた。

「可哀想なんかじやないよ！幸せ、幸せすぎて涙が出るくらい」

「汚い連中に殴られて、犯されて、幸せすぎて死にそり……だよ」

思つよつて声が出ない。

何故か声がしゃくりあがつてしまつ。

自分の気持ちに嘘をつくのなんて、簡単だと思つていたのに。

「もういわなくていい。僕は嘘が嫌いだ。」

彼はそういふと、私の手を強引に引っ張つた。

もう払いのける力もない、か細い私の手を。

「一緒に行こう。外の世界に」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9965n/>

天窓

2010年10月29日13時15分発行